平成３０年度第１回総合教育会議　議事録

【日時】平成３１年２月２２日（金）　１５時から１５時５３分まで
【場所】七尾市役所５階　災害対策本部室
【構成員】
七尾市長　不嶋　豊和、七尾市教育委員会教育長　高　絹子、
教育委員会教育長職務代理者　寺岡　卓子、
教育委員会委員　大森　重宜、教育委員会委員　石川　武志

【事務局ほか職員】
総務部長　白田　剛、教育部長　中川　忠司、
企画財政課長　楠　利勝、学校教育課長　阿部　斉、
企画財政課課長補佐　山本　博、教育総務課課長補佐　山本　昌文、
企画財政課主幹　竹下　貴紀

【議事】
１　開会
２　協議（１）教育大綱の策定について
（２）平成３１年度教育関係当初予算案の概要について
（３）その他
３　閉会

【議事の経過】
（１）教育大綱の策定について・・・質疑等なし、承認
（２）平成３１年度教育関係当初予算案の概要について
大森委員
・学校インターネット活用推進事業について、今後のメンテナンスについて伺う。

中川教育部長
・この事業は３年間をかけて整備をするが、その中で５年間のリース契約とあわせて保守契約も結んでいる。

大森委員
・２０２０年以降、ガラッとこの環境が変わるといわれている。
・予算的なことは別としても、市として何かしらの準備をしておかなければ対応できないのではないかと思う。
・無駄なことになっても困る。効率的なものが出てくるという噂もあるので、我々も考えておかなければならないと思う。

寺岡教育長職務代理者
・支援員の人数については、増えたのか減ったのか、これで充実しているのか。

阿部学校教育課長
・支援員については、昨年度５名増員しており、今年度については増減なし。
・学校からの要望もあるが、現状を鑑みてこの人数で、適正に配置をしている。

大森委員
・４のところで、考え方として、歴史文化を守り伝えるとなっているが、おそらく文化というのは守るものではなく、新しく何かしら作り上げていかなければいけないという発想を持った方が良いのではないか。
・伝統は守ろうと思って守れるわけではなく、面白がって新しいものを作り上げていくというのものだと思う。そうしなければ町自体が楽しくなくなる。

教育部長
・新しい、作り出すという視点も入れながら今後考えてやっていきたい。

大森委員
・その時には、この里山里海ミュージアムというのはものすごく使いやすいコンテンツになる。

不嶋市長
・予算の説明ということで、議決いただいた後は有効に活用していただければと思う。新しい試みも考えながらお願いする。

（３）その他・・・教職員の多忙化改善、若手職員の早期育成について
不嶋市長
・まだまだ現場は多忙なのではないか。

阿部学校教育課長
・主な取り組みの中で、最終退校時刻の目安を設けるということで、当初は２０時としていたが、年度途中から１９時などに前倒しするなど、先生方が早く帰れる状況になってきているという現状もある。

大森委員
・先生方にこの多忙化に対するアンケートなど、何かしらものを七尾市独自で行っているか。

阿部学校教育課長
・七尾市独自では行っていなく、県のアンケート調査を七尾市全体にも行っているので、県のアンケートを資料としている。

大森委員
・先生方は多忙感があると仰っているのか。

阿部学校教育課長
・この多忙化と多忙感とは若干違っており、先生方は意外と多忙感を感じておらず、その意識改革も重要だと思っている。

大森委員
・私の方の大学では、教員を育成するコースがあり、そこだけ受験生が減りつつある。
・おそらく、メディアが教員の多忙化など厳しい状況にあるということを少し言い過ぎているのではないか思う。もう少し楽しいものだというようなことを何かしら伝えてもらわないと。

不嶋市長
・先生方ではなく周りが言い過ぎている状況。モンスターペアレントがいたりして、学校弁護士を配置しないといけないのかとも考えるくらいの状況。

高教育長
・教員の本来の目的である、子どもを育てるとか未来に向かって頑張るというところが全然クローズアップされておらず、多忙であるということや、虐待や何か事件があった場合は学校の対応はどうだったのかという報道だけがされている。

不嶋市長
・学校外のことを学校や先生の責任にされているという現状はよくない。学校は教育をする現場。

高教育長
・今は、学校が家庭の状況を心配しなくてはいけない現状になっている。ＤＶや虐待など、家庭としての成り立ちがなっていないところもあるのではないかと思う。

不嶋市長
・地域や社会についても、子どもに対する許容量が無くなってきているように感じる。新幹線で子どもが泣いていたら怒鳴るなど、子どもはこういうものだという感覚が無くなってきているのではないか。

大森委員
・教員が幸せに仕事をできるかということがいい結果につながるのではないか。
・多忙感が一番のストレスになるかと思うが、充実しているということが大事。

寺岡教育長職務代理者
・教育学部でも半分以上が教員にならない。勤務の時間だけをただ減らせばいいというわけではなく、教員としてのやりがい、生きがい、モチベーション、達成感などを得られればと感じる。
・あとは地域の方の力を借りるなどをしていった方がいいと感じる。
・私の方にも保護者から相談の電話があるが、その保護者はその前に学校にも電話をかけて話をしている。それも保護者対応の中の一つ。今後どのような対応をしていくのかということも考えなければならない。
・今は学校、家庭、地域の三位一体で子どもを守ろう育てようと言っている割には、意外と情報を発信していないとか学校側が閉塞的。地域の方は思っている以上に、子どもや学校や家庭のことをよくわかっており、声をかけてくれないかと思っている。
・一生懸命、子どものためにと思っている地域の方たちと保護者も含めて、応援団としていければ、先生方としてもコミュニケーションを取りやすく信頼関係を築いていくうえでいい方向にいくのではないかと思う。

不嶋市長
・学校もオールラウンドではない。ここの部分は地域が担うということができればと思う。保護者としては、先生はオールラウンドで何でも受け止めてくれると思っている。学校はこういうところだという理解を持ってもらわなければならない。

大森委員
・今後、たくさんの先生方が退職して、次に入ってくる人たちが同じような力を持っている人たちということは期待できないと思うので、今から随分な対策を練っていかないといけないと大変だと思う。

不嶋市長
・再任用などを使って、教育力をつないでいくというシステムを開発しなければいけない。若い人を育てるシステム、うまく受け継いでいくシステムを作らなくてはいけない。

大森委員
・ところが、研修をしてはいけないという風潮があるので、そこがまた難しいところ。そういうところまで現役の先生にさせるのかとなると、また多忙化につながってしまう。そこは考えていかなければいけないと思う。

高教育長

・あと数年で退職をされる方には、今持っている力を若い方に示しながら、サポートに回ることをお願いしている。実際、校長、教頭、教務主任を除くとあとは３０代、２０代になってしまう。他の研究主任、指導主事の年齢も若くなってしまい、どんな仕事をするかもわからなくなってしまう。そういうポジションについても私たちの方で指導して育てていかなければいけないと感じている。

石川委員

・残業について、３年後までに月８０時間を超える教職員を無くすという目標は、今現在ほとんど達成できてきている現状。また更に、例えば年間３６０時間とか目標を再度設定するということは考えているか。

阿部学校教育課長

・今後、国、県の動向を見定めたうえで、七尾市の今後の取り組みを考えていきたい。
・時間を減らすことが目的ではないので、子どもたちのことを考えながら、業務の適正化を図る。教職員の意識改革とあわせて、先生方の働きがい、やりがいを保ちつつ、時間外を減らして、心身の健康を保つことを目指していきたいと思う。

不嶋市長

・３６５日、学校に縛られているのはよくない。休みはしっかり取れるようにするとか、メリハリがある現場が良いと思う。

・本日は、色々なご意見をいただいた。首長としても、しっかり注視しながら、サポートできるようにしていきたい。
・教育委員の先生方にはしっかりと教育現場に目を向けていただき、教育長に叱咤激励をいただけると大変ありがたいと思っている。
・本日は、貴重なご意見をありがとうございました。